

う優秀な経済学者が育つことを願っております。その他の活動に関する詳細は以下にあります、TCER 研究会、種々のコンファレンス等、例年通り活発に活動してまいりました。

来年度から TCER の事務局運営が大きく変わります。以下に記載してありますように、来年度から独立した事務所を設置し、専任の事務担当職員を一人採用いたします。これまでは、事務局を同友会内部に設置させて頂き、事務手続きの多くの部分を同友会のご厚意に依存していました。そのような状況の中、公益法人に関する新制度が 2008 年 12 月 1 日から施行されることになり、TCER も新制度の下での公益法人としての認定を目指して、独立した事務所の設立など環境整備を開始することにしたわけです。公益法人の認定にあたっての詳細な条件などは、徐々に明らかになってくるとは思いますが、活発な研究・調査活動が必要条件であることは明らかです。そこで、会員諸氏には TCER での活発な活動を御願する次第です。また、来年度は事務作業量も大きく増えることが予想されることから、新執行部の方々へのご支援もよろしくお願いいたします。

代表理事としての 2 年の任期の終了が迫っています。この 2 年間、曲がりなりにも任務を遂行できましたのは、代表理事代理の清野先生、会計担当理事の戸田先生をはじめとした理事の方々および会員の方々のご支援・ご指導のお陰であります。この場をお借りして、感謝の意を表わしたいと思います。最後になりますが、TCER の発展のために、今後とも出来る限りの貢献をさせていただく所存であることをお伝えしておきます。

(2) 事務所設置について

これまで経済同友会のご厚意のもと、同友会内に設置されておりました TCER 事務局を、新たに独立して設けることとなりました。それに伴い、事務局担当職員も一人採用することとなりました。新事務所は東大、早慶に近く、一橋からも来やすいという条件で中央線の飯田橋地区を予定しております。決定次第、ウェブサイトおよび次号のニューズレターにてご報告いたします。事務局担当職員は既に決定いたしました。同友会セミナーは引き続き行われますが、事務作業は TCER 側に移ることになります。また、2008 年度より理事会は幹事校ではなく、新事務所で開催される予定です。

(3) 2007年度第2回研究員会報告

2007 年度第 2 回研究員会は、2008 年 2 月 6 日午後 2 時～午後 4 時に、早稲田大学西早稲田キャンパス 19 号館 7 階 710 教室にて行われ、2008 年度事業計画および予算案が審議、承認されました。また、財団運営体制の変更（事務局運営体制の独立化、公益法人移行準備作業の開始、評議員内訳の変更）について報告されました。御参加（委任状を含む）された皆様に感謝いたします。

(4) ワーキングペーパーシリーズ投稿のお願い

TCER ウェブサイトにはワーキングペーパーシリーズのページがあります。このシリーズは、大学などの所属の枠にとらわれず、同じようなテーマの論文を見つけることができる場所を提供することを目的として創設されたものです。投稿は TCER 研究員あるいは TCER 関連のコンファレンス報告者にかかれております。英語と日本語のシリーズがあります。投稿規定は

http://www.tcer.or.jp/wp/sbm_readme.phpにあります。ふるってご投稿下さい。

2. TCER 研究会

2007 年度の TCER 研究会は早稲田大学で開催されました。後期の研究会を掲載いたします。

日時：2007年10月4日（木） 午後4:20～5:50

報告者：飯田 幸裕氏(二松学舎大学 国際政治経済学部)

論題：「De jureとDe factoの為替レート制度：開放小国における最適な選択」

場所：早稲田大学 1号館 401教室

日時：2007年10月11日（木） 午後4:20～5:50

報告者：高宮 浩司氏(新潟大学大学院 経済学研究科)

論題：“Strategy-proofness versus “powers of coalitions” in coalition formation problems”

場所：早稲田大学 1号館 401教室

日時：2007年12月13日（木） 午後4:20～5:50

報告者：西島 益之氏(横浜市立大学 国際総合科学部)

論題：“Mixed Duopoly with Vertically Differentiated Services under the Finiteness Property”

場所：早稲田大学 1号館 401教室

日時：2007年12月20日（木） 午後4:20～5:50

報告者：敦賀 貴之氏（日本銀行 金融研究所）

論題：“Do Sticky Prices Need to Be Replaced with Sticky Information?”

場所：早稲田大学 1号館 401教室

日時：2008年1月10日（木） 午後4:20～5:50

報告者：成生 達彦氏（京都大学大学院 経営管理研究部）

論題：「インターネット時代のチャンネル管理：均衡と厚生」

場所：早稲田大学 1号館 401教室

日時：2008年1月17日（木） 午後4:20～5:50

報告者：椋 寛氏（学習院大学 経済学部）

論題：“Preferential Liberalization and Content-Requirement of Rules of Origin under Imperfect Competition”

場所：早稲田大学 1号館 401教室

日時：2008年1月24日（木） 午後4:20～5:50

報告者：柴田 孝氏（大阪商業大学 経済学部）

論題：「遠洋漁業国・資源保有国間における入漁交渉」

場所：早稲田大学 1号館 401教室

3. コンファレンスご案内・報告

(1) TRIO コンファレンス報告

今年度はNBER-TCER-CEPR 20th Anniversary Conference on Financial Globalizationとして、六本木のアカデミーヒルズで2007年9月4-5日に開催されました。プログラムは以下のウェブサイトでご覧になれます。<http://www.nber.org/~confer/2007/trio07/trioprg.html>

(2) 2007年度 TCER ミクロコンファレンス報告

今年度のTCER ミクロコンファレンスは、第13回ディセントライゼーション(DC)コンファレンスと共同開催の形で2007年9月22日(土)に日本大学大学院総合科学研究科・第2別館にて行われました。

例年同様、コンファレンスは招待講演と投稿論文から構成されました。

投稿論文では、ミクロ経済学の理論的アプローチに関する論文を中心に応用分野の論文も集まり、午後1時から2時30分まで2本、2時45分から5時まで3本、計5本の論文が報告されました。

また、5時20分から6時20分まで吉原直毅教授(一橋大学経済研究所)に招待講演を行っていただきました。総参加者数は約30名で、活発な意見が出され、大変充実した有意義なコンファレンスとなりました。プログラム委員およびプログラムの詳細は以下の通りです。(敬称略)

プログラム委員

安藤至大(日本大学)、岡田 章(一橋大学)、梶井厚志(京都大学)、関口 格(京都大学)、豊福建太(日本大学)、丸田利昌(日本大学)、吉原直毅(一橋大学)

プログラム

報告1 座長 関口 格(京都大学)

13:00 - 13:45 吉川 満(関西学院大学大学院経済学研究科博士後期課程)
「共有資源のゲームにおけるノイズの効果」(The Effect of Noise in Common Property Resource Use Game)

13:45 - 14:30 土橋 俊寛(一橋大学大学院経済学研究科博士後期課程)
Market Research and Complementary Advertising under Asymmetric Information

報告2 座長 安藤至大(日本大学)

14:45 - 15:30 加田 修(横浜国立大学)
Equiambiguity Sets and Source Aversion

15:30 - 16:15 太田勝憲(和歌山大学経済学部)
Optimal Sharing Rules in Repeated Partnerships

16:15 - 17:00 小林 創(大阪府立大学経済学部)
The Value of Collusion in Multimarket Contact

招待講演 座長 梶井厚志(京都大学)

17:20 - 18:20 吉原直毅 (一橋大学経済研究所)

On General Existence of Party-unanimity Nash Equilibria in
Multi-dimensional Political Competition Games

(3) 2007年度 TCER マクロコンファレンス報告

第9回マクロコンファレンスは2007年12月1日、2日の二日間、TCER、慶応義塾大学経済学研究科・商学研究科連携21世紀COEプログラム(市場の質に関する理論形成とパネル実証分析)、一橋大学物価研究センターの共催の下、慶応義塾大学三田キャンパスにて開催されました。幹事は櫻川昌哉、渡辺努、チャールズ・ユウジ・ホリオカの各氏でした。プログラムは以下の通りです。

12月1日(December 1)

11:00-12:00

「価格改定頻度及び特売と消費者物価指数の動向 —大規模POSに基づく考察—」

発表者: 阿部修人(一橋大学)、外木暁幸(一橋大学)

討論者: 白塚重典(日本銀行)

13:00-14:00(English)

“Land Prices and Fundamentals”

Presenter: Koji Nakamura (Bank of Japan), Yumi Saita (Bank of Japan)

Discussant: Masahiko Shibamoto (Kobe University)

14:00-15:00(English)

“Debt Forgiveness during the ‘Lost Decade’: Impacts of Revitalization Corporation of Japan”

Presenter: Satoshi Koibuchi (Chiba University of Commerce)

Discussant: Masaya Sakuragawa (Keio University)

15:30-16:30(English)

"Accounting for persistence and volatility of good-level real exchange rates: the role of sticky information"

Presenter: Mario J. Crucini (Vanderbilt University), Mototsugu Shintani (Vanderbilt University and Bank of Japan), Takayuki Tsuruga (Bank of Japan)

Discussant: Eiji Fujii (Tsukuba University)

16:30-17:30(English)

“A Neoclassical Analysis of the Asian Crisis: Business Cycle Accounting of a Small Open Economy”

Presenter: Keisuke Otsu (Bank of Japan)

Discussant: Anton Braun (University of Tokyo)

12月2日(December 2)

9:30-10:30(English or Japanese)

“From Duty to Right: The Role of Public Education in the Transition to Aging Societies”

Presenter: Yoshiaki Sugimoto (Osaka University), Masao Nakagawa (Osaka University)

Discussant: Tadashi Yagi (Doshisha University)

11:00-12:00(English)

“The role of collateral and personal guarantee in relationship lending: evidence from Japan’s small loan market”

Presenter: Arito Ono (Mizuho Research Institute), Ichiro Uesugi (Hitotsubashi University)

Discussant: Colin McKenzie (Keio University)

13:00-14:00(Japanese)

“Menu Costs and Price Change Distributions: Evidence from Japanese Scanner Data”

Presenter: Yukiko Saito (Fujitsu Research Institute) , Tsutomu Watanabe (Hitotsubashi University)

Discussant: Mototsugu Shintani (Vanderbilt University and Bank of Japan)

14:00-15:00(Japanese)

“Aging, Social Security Reform and Factor Price in a Transition Economy”

Presenter: Tomoaki Yamada (Rissho University)

Discussant: Yasushi Iwamoto (University of Tokyo)

15:30-16:30

「日本の財政の維持可能性のカリブレーション」

発表者：櫻川昌哉（慶應義塾大学）、細野 薫（学習院大学）

討論者：岡本章（岡山大学）

16:30-17:30(Japanese)

“Change in house price structure with time and housing price index” - Centered around the approach to the problem of structure change -

Presenter: Chihiro Shimizu (Reitaku University) , Hideoki Takatsuji, Hiroya Ono, Kiyohiko Nishimura (Bank of Japan)

Discussant: Masayuki Nakagawa (Nihon University)

(4) TCER プロジェクト（旧返子コンファレンス）

2007 年度から新たに「統合の政治経済学」というテーマの下に共同研究プロジェクトが開始されました。このプロジェクトの目的は、①地域間の政治経済統合とはどんな現象で、統合程度を計るにはどのような指標を用いればよいか、②統合に関わる各地域の制度・慣行などのような要因が政治経済統合を促進または阻害し、どのような社会的費用および便益が生まれるか、③政治経済統合を維持・発展させる上で各地域および全体としての政策決定はどのように集権・分権の分担がされるべきかについて、明らかにすることです。2007 年 7 月 7 日に第 1 回ワークショップが開催され、参加者によるプロポーザルについて互いに意見交換を行いました。その結果を踏まえて、2008 年春に第 2 回ワークショップが開催されます。プロジェクト参加予定者および担当領域は下記の通りです。

(敬称略)

- ・ 国際公共経済学：清野一治（早稲田大学）
- ・ 国際貿易：浦田秀次郎（早稲田大学）、木村福成（慶應義塾大学）
- ・ 公共経済学：吉原直毅（一橋大学）、小西秀樹（東京工業大学）
- ・ 労働経済学：中村二郎（日本大学）、大橋勇雄（一橋大学）
- ・ 国際マクロ経済学：小川英治（一橋大学）、熊本方雄（東経大）

・産業・競争政策：長岡貞男（一橋大学）

（5）2008年度「アジアの通貨危機」コンファレンスご案内

2008年度の「アジアの通貨危機」コンファレンスの概要は、以下の通りです。

日時：2008年12月13日-14日

場所：中央財経大学（中国）

TCERからの参加予定者（敬称略）： 福田慎一、小川英治、その他

テーマ： 本コンファレンス・シリーズの目的は、約10年前に深刻な危機に陥った東アジア諸国経済を理論的・実証的に分析することにあります。コンファレンスでは、「なぜ東アジア諸国で経済危機が発生したか?」、「その再発を防ぐにはどうすればよいか?」など、政策的に重要な課題を経済学の観点から分析することを目的としています。東アジア諸国は、近年順調な危機からの回復を遂げているものの、1997年の経済危機はきわめて深刻なもので、その教訓はそれまでの東アジアの経済システムの是非を含めて数多くの論争を生み出しています。コンファレンスには、アジア太平洋諸国の研究者を中心に、世界各国から経済学者が参加され、アジア通貨危機後の東アジア地域における国際経済の制度設計という観点から、東アジア地域における貿易・国際金融の理論的・実証的な研究成果が報告され、それに関連して活発な議論が行われる予定です。

詳細は以下のウェブサイトをご覧ください。<http://www.apeaceweb.org/confer/bei08/>

（6）NERO コンファレンス予定

2008年は3月12日にパリのOECD本部で開催されます。テーマは気候変動です。TCER側は環境経済学の専門家を派遣する予定です。

（7）TCER ジュニア・ワークショップ報告

早稲田大学21COE-GLOPEとの共催で、第1回TCER Junior Workshopが2月9日（土曜日）に早稲田大学にて開催されました。詳細は下記のURLを参照してください。

<http://21coe-glope.com/sympo/junior-ws.html - program>

これはTCERが開始した若手研究者育成事業の一つです。研究員皆様の温かいご支援を賜うことができますよう、お願い申し上げます。

（8）2008年度TCERマクロコンファレンスご案内

第10回マクロコンファレンスは2008年12月に、TCER、一橋大学物価研究センターの共催の下、慶応義塾大学三田キャンパスにて開催する予定です。テーマは特に定めず、マクロ関連の論文であれば、理論でも、実証でも、日本に関するものでも、外国に関するものでも良く、広く募集する予定です。しかし、日本経済・世界経済の最近の動向に新しい知見を与えてくれる論文を特に求めます。幹事は櫻川昌哉、渡辺努、チャールズ・ユウジ・ホリオカの各氏の予定です。

編集後記

来年、2009年はTCER設立50周年の記念の年となります。新たなプロジェクトや寄付事業なども提案されております。理事だけでは手に負えないことも多く、研究員の皆様のご協力をお願いいたします。末筆になりましたが、2008年が皆様にとって実りの多い年になりますよう、お祈りいたしております。(グレーヴァ)

Newsletter に関するご意見やご感想は、代表理事 浦田秀次郎 surata@waseda.jp または総務理事 グレーヴァ香子 takakofg@econ.keio.ac.jp までご連絡下さい。